

# Salon

Vol.151 2024年7月 夏号



ホール3F壁画 ポール・ゴアマン作「アダムとイヴ」

- CONTENTS
- 01 Prime Interview — アンティ・シーララ
  - 03 Phoenix Presents — Fauré and more Fauré フォーレ ピアノ五重奏曲 全曲演奏会  
小塩真愛×三原未紗子 ピアノデュオリサイタル
  - 05 Pick Up — B→C(ビートゥーシー|パツハからコンテンポラリーへ) 葵トリオリサイタル
  - 07 Essay de say — 宮崎駿作品を彩ったミニマル音楽 小室敬幸



# ベートーヴェンのスペシャリスト アンティ・シーララさん



©Tibor Bozi

アンティ・シーララは、1997年ウィーン・ベートーヴェン国際ピアノコンクールで第1位(最年少)、2003年リーズ国際ピアノコンクール優勝という快挙を重ね、世界的に注目を集めるピアニストとなった。以降、ヘルベルト・ブロムシュテット、エサ=ベッカ・サロネン、ネーメ・ヤルヴィらの指揮のもと、ベルリン・ドイツ交響楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ウィーン交響楽団、日本ではNHK交響楽団に読売日本交響楽団、東京都交響楽団など世界各国の一流オーケストラと共演している。幅広いレパートリーを誇るが、彼にとってベートーヴェンがレパートリーとして確固たる存在感を放っており、これまでに全曲演奏はもちろん、ツィクルス演奏も数多く行ってきた。とりわけ後期の三大ソナタは度重なる演奏と共に録音もあり、いずれも高い評価を受けている。今回ザ・フェニックスホールでその重要作品をどのように演奏してくれるのか期待が膨らむなか、シーララにベートーヴェンや作品への想いなどを聞いた。

(長井進之介 音楽ライター)

アンティ・シーララ (Antti Siirala/ピアノ)

同年代の中でももっとも洗練されたフィンランド人ピアニスト。ウィーン・ベートーヴェン国際コンクール最年少第1位、リーズ国際ピアノコンクール優勝。これまでに、ヘルベルト・ブロムシュテット、フランソワ=グザヴィエ・ロト、エサ=ベッカ・サロネン、サカリ・オラモ、ネーメ・ヤルヴィ等のタクトで、ベルリン・ドイツ響、バンベルク響、hr響、NDRエルプフィル、WDR響、南西ドイツ放送響、チューリッヒ・トーンハレ管、ウィーン響、バーミンガム市響、フィルハーモニア管、フィンランド放送響、サンフランシスコ響等と共演。ベルリン・フィルハーモニーでのリサイタルのほか、ルツェルン音楽祭をはじめとする音楽祭、ケルン・フィルハーモニー、ウイグモア・ホール、アムステルダム・コンセルトヘボウ、メトロポリタン美術館、チューリッヒ・トーンハレ等の主要ホールに登場している。ミュンヘン音楽大学教授およびシベリウス音楽院教授。

ティータイムコンサートシリーズ172  
アンティ・シーララ ピアノリサイタル

2024年8月2日(金) 14:00開演 指定席 ※お菓子付き  
一般4,000円 友の会会員3,600円 学生(25歳以下)1,000円

■出演 アンティ・シーララ(ピアノ)

■曲目 ベートーヴェン:ピアノソナタ 第30番 ホ長調 op.109  
ピアノソナタ 第31番 変イ長調 op.110  
ピアノソナタ 第32番 八短調 op.111

■チケットのお求め・お問い合わせ  
ザ・フェニックスホールチケットセンター  
06-6363-7999(平日10:00~17:00、土日祝休)

## シーララが奏でる ベートーヴェンの後期3大ソナタ

あまりにも明らかなことではありますが、シーララさんにとってベートーヴェンは非常に重要な存在ですね。あなたにとってこの作曲家はどのような存在なのでしょう。

ベートーヴェンの音楽は、つねに私の音楽人生と共にあるものです。そしてそれぞれの時期に様々な意味を持つものでもありました。彼の音楽には、激しい葛藤から諦めに至るまで、もしくはありふれたものから高貴な明快さまで、多彩な側面があるのです。演奏するたびに、彼の音楽から何かしら共感を見つけることができます。

ベートーヴェン作品を演奏する際、どのようなことに喜びや難しさを感じるのでしょうか？

彼の音楽の力強さ、美しさ、天才性から得られる喜びには事欠かないですし、彼の偉大な作品に触れるたびに私は驚かされています。しかし、同時にそのことが演奏することを非常に難しくもしているのです。というのも、楽譜に書かれたベートーヴェンの要求には際限がなく、それに直面したときに演奏者として萎縮してはならないからです。

シーララさんがベートーヴェンの演奏において、大切にされていることはどんなことなのでしょう。

表現というのは、音楽に対する個人的な理解から来るものだと思います。音色やテンポ、構成といった表面的なことだけでは本質を表現することはできないでしょう。その音楽がなぜそのように書かれているのかを知り、その考えを演奏の中でできるだけ明確に表現しなければならぬのです。

シーララさんはベートーヴェンのピアノソナタを演奏するにあたってどのようなことを学ばれ、深めていらっしゃるのでしょうか。特に彼の作品の場合、他ジャンルの作品に触れるという事は非常に有益なことかと思うのですが…。

私にとってベートーヴェンは生涯の伴侶とでもいうべきものであり、その時々によって異なる側面に重点をおいて演奏をしてきました。作品についての新たなインスピレーションは、他の作品の

パフォーマンスから得られることもあれば、詳細な分析などからも得ることができ、突然にひらめくようなこともあります。演奏のために前もって計画を立てることは、いつも簡単なことではありません。

今回演奏してくださる後期の三大ソナタについて、シーララさんは既に録音もされていますし、度々演奏をされていることから、32曲のピアノソナタのなかでも特に思入れのある作品のように見受けられます。どのようなところに特別さを感じていらっしゃるのでしょうか。

もちろん、これらのソナタについてどこが特別なかを語れと言われれば、何冊も本を書くことができるでしょう。しかし、もし一言で表すとしたら、彼の音楽的思考の統合を象徴しているものだとと言えるでしょう。未来への道を示すと同時に、信じられないほど個人的で感動的な作品なのです。

第30番、31番、32番はそれぞれ全く異なった曲想で、様々なイメージを喚起する楽曲です。演奏する際に、何かイメージや物語のようなものを想像するといったことはあるのでしょうか。それぞれの楽曲について何か考えていらっしゃるがあれば教えてください。

この質問に対する答えは非常に広範囲に及ぶものとなりますね。あまりにも偉大な作品のため、これらについてわずかな言葉で説明することは非常に難しいでしょう。しかしまず言えることは、これらのソナタには多くの対比がありながら、同時に関連性も存在するということです。そのために一部の人はこの3曲を“三部作”と解釈しています。幻想曲風ソナタを思わせる第30番の第1楽章をはじめ、第30番と第32番の終楽章における変奏形式の独創的な使用、第31番の終楽章で歴史的ジャンルであるフーガを用いていることなど、形式的には多くの魅力的な側面を見つけることができます。そして第31番の第2楽章や第31番のアリオソとフーガの間には、しばしば厳しい二面性が存在するように思えます。どういうわけか、これらの音楽は、ソナタ形式を核としながら、統合と和解をテーマにしているのです。3つのソナタの間には、第31番の第1楽章にただよう優しさから、第32番

の第1楽章におけるほとんど暴力的な表現まで、感情的に大きな幅があるのです。

シーララさんはミュンヘン音楽大学とシベリウス音楽院で後進の指導にあたられていらっしゃいます。もちろん学生それぞれの個性に合わせた指導をされていることは承知しておりますが、ベートーヴェンの作品を学生に指導される際に何か共通して重要視されているようなことがあれば教えてください。

ベートーヴェンの作品と同じように、生徒も千差万別なので、議論のポイントもおのずと違ってきます。多くの場合、伝統的なピアニズムや音楽的な美徳だけに注目するのではなく、根底にある音楽的なアイデアを探し、それを通して表現を見出そうとすることが重要なのです。実際、伝説的なベートーヴェン弾きであるアルトゥル・シュナーベルは、「ベートーヴェンの音楽では、しばしば最も困難な道を選ぶ必要がある」という言葉を遺しています。

あなたの祖国、フィンランドにおいてベートーヴェンはどのような存在なのでしょう。例えば日本では音楽大学の試験やコンクールの課題で必ずベートーヴェンの演奏が課されますし、ベートーヴェンの楽曲は一生勉強し続けるべきものだという認識が根付いています。フィンランドでもやはり同じような傾向でしょうか。

私は現在、主にドイツで仕事をしていますが、フィンランドにしてもドイツにしても、ベートーヴェンの地位が弱まっているとは思いません。音楽を学ぶ上で非常に多くのことがベートーヴェンの作品に基づいており、彼と彼の作品を無視して私たちの音楽の伝統を理解することはできないと思います。

シーララさんは来日の機会も多くなっていらっしゃいますが、日本の音楽ホール、聴衆についてどんなイメージをもたれていらっしゃいますか？

日本のホールや楽器は一般的にレベルが高く、聴衆は非常に熱心で、知識も豊富であることが多いです。日本を訪れて演奏することを、いつもとても楽しみにしています。



**ザ・フェニックスホール  
友の会優先予約**  
7月12日(金)  
10:00 受付開始  
※友の会割引は一人様2枚まで

**一般発売**  
7月16日(火)  
10:00  
インターネット予約による  
お申込みは7月17日(水)10:00から!

※発売初日は電話予約のみの  
お申し込みとなります

■アンサンブル・ア・ラ・カルト68

2024年  
12月7日(土)

15:00開演 指定席  
一般¥4,500(友の会会員¥4,050)  
学生(25歳以下)¥1,500

フォーレ没後100年記念、若手トップクラスが集結、フランス室内楽の至宝  
**Fauré and more Fauré**  
フォーレ ピアノ五重奏曲 全曲演奏会



出演 郷古廉、小川響子(以上ヴァイオリン)、  
中恵菜(ヴィオラ)、水野優也(チェロ)、水谷友彦(ピアノ)  
曲目 ガブリエル・フォーレ:ピアノ五重奏曲 第1番 二短調 op.89  
レイナルド・アーン:ピアノ五重奏曲 嬰へ短調  
ガブリエル・フォーレ:ピアノ五重奏曲 第2番 八短調 op.115

近代フランス音楽の発展へ大きく貢献した音楽家として挙げられるのがドビュッシー、ラヴェル、そしてフォーレの3名です。フォーレの代表曲として「レクイエム」や「シシリエヌ(シチリアーノ)」などが今日でも知られていますが、ドビュッシー、ラヴェルに比べるとその知名度はそれほど高くないのかもしれない。

とはいえ、パリ音楽院の教授や院長として当時のフランス音楽界を牽引する存在でもあったフォーレ。周囲の支持を受けつつも常に控えめだった彼の姿勢は、表面的な派手さによらない慎ましく内省的な作風として音楽にも反映され、その傾向は晩年になるほど強まります。歌曲やピアノ曲といった小規模曲を得意としていたフォーレは室内楽にも挑み、彼独自の作風と合致した名作を遺しました。

没後100年にあたり、とりわけ中期以降の傑作と名高い2つのピアノ五重奏曲をお届けします。みずみずしい旋律、匂い立つような情感、深い祈りのような静けさを湛えた、まさにフランス室内楽の至宝に対して、「フォーレが弾けるなら…」と、若手トップクラスの精鋭が集まりました。

フォーレは次男フィリップに宛てた手紙で次のように語っています。「私にとって芸術、とりわけ音楽とは、可能な限り人間を今ある現実から引き上げてくれるものなのです。」フォーレが音楽に見ていた世界と、さらにその先の世界を、垣間見る演奏会となることでしょう。

\*出典:『評伝フォーレ 明暗の響き』(ジャン=ミシェル・ネクトゥー著、大谷千正監訳、新評論、2000年) / 監修:白石悠里子(音楽学)

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ109

2024年  
11月13日(水)

19:00開演 自由席  
一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700)  
一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150)  
学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

響き渡る2台ピアノの世界  
**小塩真愛×三原未紗子 ピアノデュオリサイタル**

出演 小塩真愛、三原未紗子(以上ピアノ)

曲目 モーツァルト:2台のためのピアノソナタ 二長調 K.448  
サン=サーンス:死の舞踏 op.40  
ラヴェル:マ・メール・ロワ (4手連弾)  
サン=サーンス:白鳥  
ラヴェル:ラ・ヴァルス  
ラフマニノフ:組曲 第2番 op.17



留学時代には同時期にザルツブルクで学び、音楽を深めてきた二人、帰国後それぞれに様々な方面で活動を広げ、経験を積んできました。そんな二人が送る2台ピアノの世界。それぞれの音色と個性が合体した時、どんな音楽が生まれるのだろうか?という好奇心から始まり、素晴らしい作品の宝庫であるピアノデュオのジャンルにお互い心を惹かれていたことから結成されました。

今回お届けするのは、のどめカンタービレでも有名なモーツァルト(2台のためのピアノソナタ)、4手連弾で送るおとぎ話(マ・メール・ロワ)、そして舞踏をテーマにした華やかでシンフォニックな2台ピアノ作品たち。それぞれのキャラクターとストーリーを大切にプログラムを組みました。

音が重なり会話をする臨場感と、豊かに舞う音色たち、素敵な作品を通して是非デュオの魅力味わっていただけましたら幸いです。

二人の音楽から生まれる新たな音の世界、お聴き逃しなく!

■共同主催 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

2024年  
12月21日(土)

15:00開演 指定席  
一般¥3,000(友の会会員¥2,700)  
学生券の設定はありません。

注目の若手ピアノ三重奏団、レアな作品で切り拓く新たな世界  
**B→C (ベートーシュー | バッハからコンテンポラリーへ)**  
葵トリオ リサイタル

出演 小川響子(ヴァイオリン)、伊東裕(チェロ)、秋元孝介(ピアノ)

曲目 シュニトケ:ピアノ三重奏曲  
細川俊夫:メモリー—尹伊桑の追憶に  
山本裕之:彼方と此方  
藤倉大:nui(縫い)  
藤倉大:nui 2(縫い2) \*2024年 葵トリオ委嘱作品、世界初演  
J.S.バッハ:ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ ト長調 BWV1021  
ヴァインベルク:ピアノ三重奏曲 op.24



2018年のミュンヘン国際音楽コンクール優勝以来、破格の存在感を放ち続けている、葵トリオ。関西出身の3人(ピアノ:秋元孝介、ヴァイオリン:小川響子、チェロ:伊東裕)が2016年に結成した、日本では数少ない常設のピアノ三重奏団です。

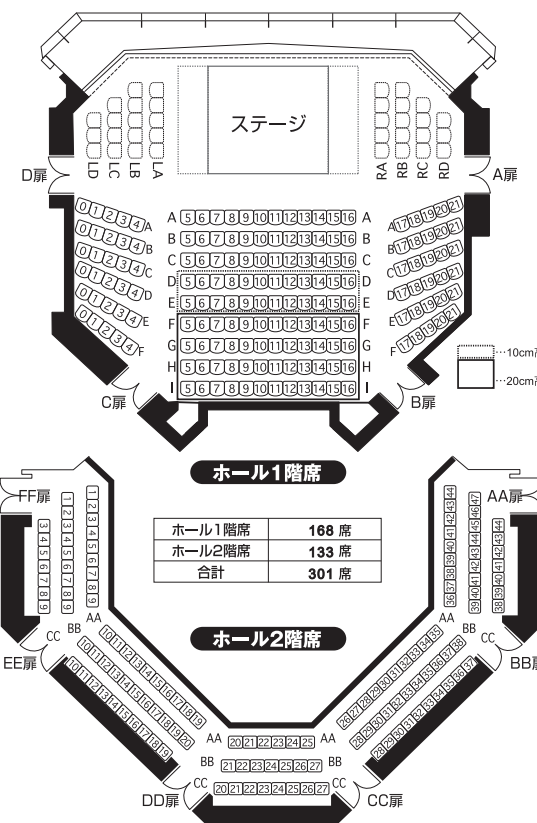
「ピアノ三重奏は各楽器が独立しているため、3人の究極の音のバランスを追求できるところに、大変やりがいを感じます」とこの編成ならではの魅力を語る彼らは、古典派やロマン派の音楽のみならず、近現代作品にも積極的に取り組み、演奏機会の少ない作品、邦人作品にも光をあてる活動が高く評価されてきました。そんな彼らでもバロックと近現代の作曲家に焦点をあてたりサイタルプログラムは今回が初めてなのだそう。

「バッハから近現代の作品を通して、3つの“新しさ(something new)”を聴衆と共有したい」というのが今回のコンセプト。その3つとは「ピアノ三重奏というスタイルで聴くバッハの新しい響き」「ピアノ三重奏の新たな名曲」「邦人作品との出会い、そして新しい音楽の産声」。シュニトケとヴァインベルクは共にソ連やロシアで活躍した作曲家で、今回演奏する各曲は欧米での評価も高まりつつあるものの日本で聴く機会はまだまだ多いとはいえ、葵トリオが「新たな名曲」との出会いを導きます。そして3人の日本人作曲家によるピアノ三重奏曲のなかには、まさに「新しい作品の産声」を目の当たりにできる新作初演も。

ピアノ三重奏の枠組みを超えた挑戦的かつ特別な機会。これまでとは一味も二味も違った、葵トリオの新しい一面をご堪能あれ!

「B→C(ベートーシュー | バッハからコンテンポラリーへ)」とは、実力ある若手日本人演奏家が、「B」=バッハ作品と「C」=現代曲を軸に、独自のプログラムを組みサイタル・シリーズ。

1998年のスタートから既に260回を超え、東京オペラシティの名物企画として、常に音楽ファンの注目を集めています。若きアーティスト達の才気溢れる個性と音楽性を大胆に浮き彫りにする人気シリーズを2017年以来、7年ぶりに大阪でも開催します。



公演チケットのお申し込み方法

お申し込みは  
**お電話 06-6363-7999 またはご来店**  
土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■チケットお申込み後のお受け渡し方法

- 下記①または②のどちらかとなります。
- お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
  - 先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律450円)のみとさせていただきます。

振込口座  
00940-0-95351

加入者名  
ザ・フェニックスホール

ザ・フェニックスホール  
チケットセンターは、  
ビル8階、  
エレベーターを降りて  
廊下右側です。






あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

**協賛公演** **松田理奈ヴァイオリン・リサイタル** 主催 プロマックス

**発売中** 2024年9月28日(土) 14:00開演 指定席  
前売・当日¥6,000(友の会会員¥5,500) ※友の会割引は一人様2枚まで。

出演 松田理奈(ヴァイオリン)、伊舟城歩生(ピアノ)  
曲目 サラサーテ:ツイゴイネルワイゼン 近年めざましい音楽的進化をみせる松田理奈、待望のソロ・リサイタル!久方ぶりの大阪公演は、華やかなヴィルトゥオーゾと豊かなカンタービレを楽しむ名曲集。松田理奈のロマンティックな音世界に浸る特別なリサイタルを是非お楽しみください。

曲目 サラサーテ:ツイゴイネルワイゼン  
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第3番  
ラヴェル:ツイガーズ  
クライスラー:美しきロスマリン、前奏曲とアレグロ、テンポ・ディ・メヌエット  
エルガー:愛の挨拶 ほか




**協賛公演** **カール・ライネッケ 生誕200年 記念演奏会** 主催 カール・ライネッケ 生誕200年 記念演奏会 実行委員会

**7/11(木) 発売** 2024年10月3日(木) 19:00開演 自由席 一般前売¥4,000(友の会会員¥3,500) 一般当日¥4,500(友の会会員¥4,000) 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

出演 岡田将(ピアノ)、ザビエル・ラック(フルート)、正戸里佳(ヴァイオリン)  
曲目 ライネッケ:フルートとピアノのためのソナタ「ウンディーネ」 op.167 ゆりかごから墓場まで op.202  
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ホ短調 op.116より 第1楽章 ほか

カール・ライネッケの生誕200年にあたり彼の作曲家、指揮者、ピアニスト、教育者としての多面的キャリアを通して彼の楽曲のすばらしさと後世へ与えた影響を音楽でお楽しみください。フルートとピアノ、ヴァイオリンとピアノ、はたまた二重唱の声楽作品をトリオに編曲した作品に焦点を当てつつ、彼とかわりのあった、シューマンとのかかわりなどもお楽しみいただけます。




**協賛公演** **The Violin Sonata Series 5人のマエストロ×多川響子【vol.4】** 主催 Office TAGAWA

**発売中** 2024年10月13日(日) 14:00開演 自由席  
一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会会員¥4,000)  
学生前売¥2,000 学生当日¥2,500 ※友の会割引は一人様2枚まで

出演 泉原隆志(ヴァイオリン)、多川響子(ピアノ)  
曲目 シューマン:ヴァイオリンソナタ 第1番 イ短調 op.105  
プーランク:ヴァイオリンソナタ FP119  
ルクー:ヴァイオリンソナタ

バロックから近現代までの膨大な「ヴァイオリンソナタ」の中から名曲32曲を厳選し、5人のヴァイオリニストと多川響子が5年をかけて演奏する壮大なシリーズ。第4回は京都市交響楽団コンサートマスターの泉原隆志氏が登場!




**協賛公演** **猪居謙 ギターリサイタル** 主催 猪居ギター教室

**7/12(金) 発売** 2024年10月26日(土) 14:00開演 自由席 一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会会員¥4,050)  
学生前売¥3,000 学生当日¥3,500 小学生前売¥500 小学生当日¥1,000

出演 猪居謙(ギター)  
曲目 ブローウェル:旅人のソナタ  
ヴィラ=ロボス:ブラジル民謡組曲  
ディアンズ:ヴィラ=ロボス讃歌 ほか

地元・関西を中心に、全国各地で演奏活動を行い注目を集めるギタリスト、猪居謙による自身初のザ・フェニックスホールでのソロリサイタル。H.ヴィラ=ロボスの代表的ギター作品である《ブラジル民謡組曲》や、そのヴィラ=ロボスに捧げられたR.ディアンズによる《ヴィラ=ロボス讃歌》、L.ブローウェル作曲のソナタ第2番としても知られる大曲《旅人のソナタ》など、渾身のプログラム。



**協賛公演** **中村澁己 津軽三味線・民謡リサイタル** 主催 日本コロムビア株式会社

**発売中** 2024年10月27日(日) 14:00開演 指定席 前売¥4,000(友の会会員¥3,500) 当日¥4,500(友の会会員¥4,000)

出演 中村澁己(津軽三味線)、山本真広(ピアノ)  
曲目 津軽じょんから節(青森県民謡)、秋田荷方節(秋田県民謡)、AYUMI-歩-(作曲:中村澁己) ホーハイ節(青森県民謡)ピアノ アレンジ版♪、南部酒屋元すり唄(岩手県民謡)ピアノ アレンジ版♪  
LABYRINTH-迷宮-(作曲:中村澁己)ピアノ アレンジ版  
いのちの歌(作詞:Miyabi(竹内まりや)/作曲:村松崇継)♪、流れ星(作詞・作曲:妹尾武)♪  
ほか(予定) ♪=唄あり

10代で数々のコンクールを総なめにしてきた、現役大学生(弱冠20歳)の津軽三味線奏者&民謡歌手・中村澁己。和の伝統を受け継ぎ、20歳の今年、新たな民の唄として進化させるファーストフルアルバムのリリースと全国ツアーを開催。




**協賛公演** **三浦一馬バンドネオン・シネマ 一映画音楽の巨匠たち** 主催 合同会社Moon

**発売中** 2024年11月9日(土) 【第1部】14:00開演 【第2部】17:00開演 指定席  
一般前売¥5,000(友の会会員¥4,500) 一般当日¥5,500(友の会会員¥4,500)

出演 三浦一馬(バンドネオン)、西江辰郎、谷本華子(以上ヴァイオリン)、神原玲奈(ヴィオラ)、細谷公三香(チェロ)、奥田敏康(コントラバス)、長富彩(ピアノ)  
曲目 ヘンリー・マンシーニ:ムーン・リバー(映画「ティファニーで朝食を」)、ひまわり(映画「ひまわり」)、エンニオ・モリコーネ:ニュー・シネマ・パラダイス(映画「ニュー・シネマ・パラダイス」)、ガブリエルのオーボエ(映画「ミッション」)、ニーノ・ロータ:愛のテーマ(映画「ゴッド・ファーザー」)、太陽がいっぱい(映画「太陽がいっぱい」)ほか

絶大な人気を誇るバンドネオン奏者三浦一馬が、クラシック界を担うメンバーと豪華サウンドで奏でる極上の70分。映画音楽の黄金時代を築いた巨匠の作品をお届けします。哀愁漂う美しいメロディーが誘う、心優雅なひとときをお楽しみください。




**協賛公演** **Quartet Exploce ツアー 2024** 主催 Quartet Exploceの会

**発売中** 2024年11月11日(月) 19:00開演 指定席  
一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会会員¥4,050)  
学生前売¥1,500 学生当日¥2,000 ※友の会割引は一人様2枚まで

出演 市寛也、高木慶太、辻本玲、森山涼介(以上チェロ)  
曲目 J.S.バッハ:シャコンヌ ほか

今年「カルテット・エクスプローチェ」の結成10周年となります!今まで演奏してきた曲から特にお客様に人気のあった曲そして僕たちの思い出の深い曲を選びすぎてみなさんにお届け致します!楽しみにしてください。今までの10年間の集大成、そしてまたこれからの未来へのスタートとして、エクスプローチェメンバー一同張り切っております!みなさんぜひ聴きにきてください。ザ・フェニックスホールでお待ちしています!



**【ドリンクコーナー】が再開しています!**

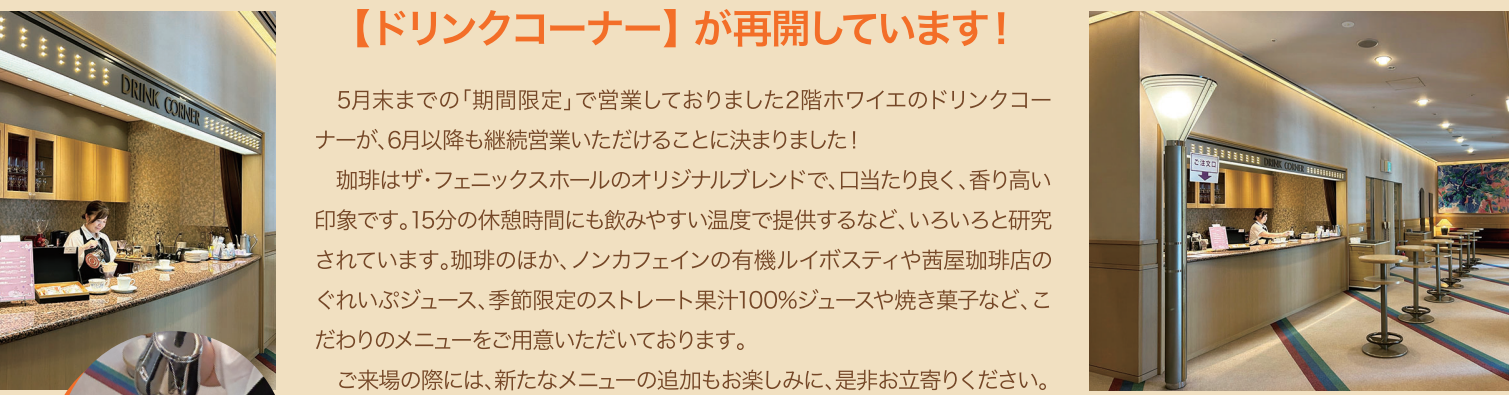
5月末までの「期間限定」で営業しておりました2階ホワイエのドリンクコーナーが、6月以降も継続営業いただけることになりました!

珈琲はザ・フェニックスホールのオリジナルブレンドで、口当たり良く、香り高い印象です。15分の休憩時間にも飲みやすい温度で提供するなど、いろいろと研究されています。珈琲のほか、ノンカフェインの有機ルイボスティや茜屋珈琲店のぐれいぶジュース、季節限定のストレート果汁100%ジュースや焼き菓子など、こだわりのメニューをご用意いただいております。

ご来場の際には、新たなメニューの追加もお楽しみに、是非お立ち寄りください。

● 営業店舗のご案内 ●

Cafe 聖香 (Produced by 茜屋珈琲店)さんは、「短い時間にも美味しい安らぎを」をコンセプトにした昭和41年創業の珈琲専門店【茜屋珈琲店】がプロデュースした新ブランドです。

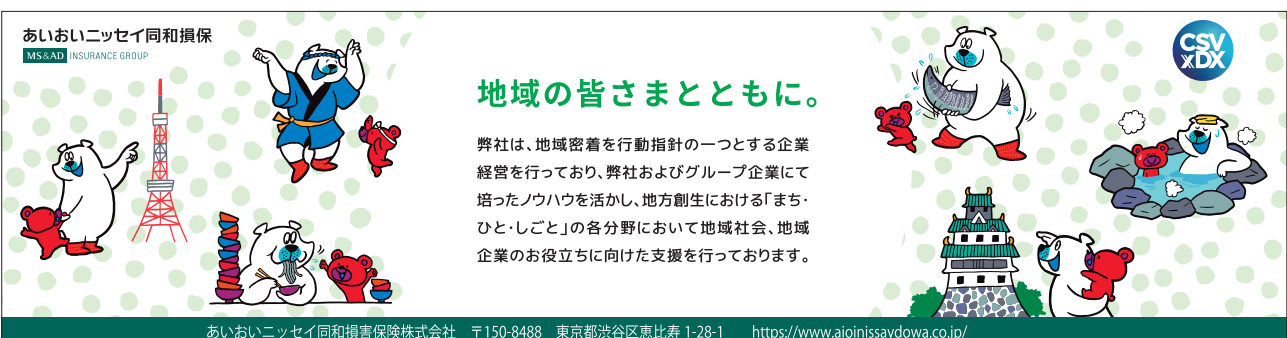


あいおいニッセイ同和損保 MS・A&D INSURANCE GROUP

**地域の皆さまとともに。**

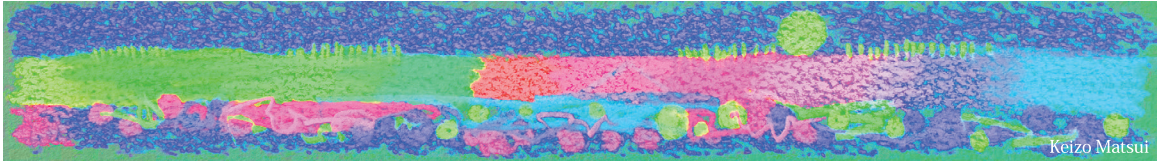
弊社は、地域密着を行動指針の一つとする企業経営を行っており、弊社およびグループ企業にて培ったノウハウを活かし、地方創生における「まち・ひと・しごと」の各分野において地域社会、地域企業のお役に立ちに向けた支援を行っております。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1 <https://www.aioinissaydowa.co.jp/>





## 宮崎駿作品を彩ったミニマル音楽



短いフレーズの反復によって作られる「ミニマル音楽」は、1960年代なかばのアメリカで誕生。世界に波及したことでクラシックや現代音楽のみならず、アンビエント、テクノ、ジャズ、ロックなど、様々なジャンルの音楽家に影響を与えた。そのひとりが藤澤 守こと、皆さまご存知の久石 譲(クインシー・ジョーンズをもじった芸名)だ。

難解な現代音楽を作曲していた国立音楽大学の学生時代、ミニマル音楽の創始者のひとりテリー・ライリーがインド音楽などの影響を受けて作曲した《A Rainbow in Curved Air》(1969年にレコード発売)と出会い、美しい響きでも最先端の音楽を生み出せることに気付いたことが、彼の人生においてとても大きな転機となった。1981年に発売したプロデュース作『MKWAJU』で久石流のミニマルリズム(ミニマル主義)をある程度確立した上で“クラシック”と決別し、彼自身が自覚的に“ポップス”の世界に活動領域を移してから実にはミニマル的な音楽を書き続けていたからだ。

久石は大学を卒業した1974年から映像に音楽をつける劇伴仕事を始めたのだが、色んな意味で出世作となった『風の谷のナウシカ』(1984年公開)のサウンドトラック冒頭は、まさに《A Rainbow in Curved Air》に似た音楽で始まるし、劇中では近しい音楽がバージ(貨物グライダー)を救出する場面で流れる。終盤の〈メーヴェとコルベットの戦い〉は、ライリーと並び称される創始者のひとりフィリップ・グラスのスタイルをモデルにしているし、後述するように以後も飛行の浮遊感とミニマル音楽が結び付けられることは多い。また『紅の豚』(1992)の本編開始2分後とクライマックスのドッグファイトの場面には〈メーヴェとコルベットの戦い〉を発展させたような〈時代の風 一人が人でいられた時〉が高らかに鳴り響く。

『天空の城ラピュタ』(1986)になるとシータが空から降り

てくる場面等、神秘性を際立たせるためにシンセサイザーによるアルペジオ(分散和音)が繰り返されるのだが、これもまたミニマル音楽に由来しているといえる。『となりのトトロ』(1988)では人間にとってはまだまだ未知なる自然(まさにトトロがその象徴!)を音楽で描くために、非西洋的な“ワールドミュージック”的要素を“シンセサイザー”で取り入れた。言い換えればアナログな要素をデジタルな音色で奏することで、一種のミニマル音楽になっているのが面白い。一方、『魔女の宅急便』(1989)で核となっているヨーロッパの舞曲風の音楽は、リズムの反復こそあるがハーモニーが西洋的なのでミニマル感は薄い。だがそれでも、やはり飛行関係の一部のシーンにはミニマル的な音楽があてられている。

こうして歴史を追いながら音楽に耳を傾けていくと、実に興味深いのが『もののけ姫』(1997)だ。明確に日本を舞台にした過去作『となりのトトロ』では、意識的にバグパイプのような日本的ではない楽器を取り入れていたのに対し、『もののけ姫』は(西洋的なオーケストラを基調しながらも)どうやって“日本的”なものを音楽に取り入れるかを考えていたと久石は語っている。例えば、最初にタタリ神と対峙して村を守ろうとする場面で流れる〈タタリ神〉という曲を、前述した『紅の豚』の〈時代の風 一人が人でいられた時〉と聴き比べてみよう。実は後者において反復されるミニマル的な伴奏音型が、前者では和太鼓の反復リズムに置き換えられているだけに過ぎないことが分かるはずだ。

更にいえば『もののけ姫』は主題歌を含めた全ての音楽が、多彩でありながらもサウンドに統一感がもたらされており、ミニマルだけでなく久石が取り組んできた様々な音楽が非常に自然な形で一体化している。こうして宮崎駿作品を通して、気付かぬうちに私達はミニマル音楽に親しんでいたのである。

小室敬幸(こむろ たかゆき) / 音楽ライター

茨城県筑西市出身。東京音楽大学および同大学院で作曲と音楽学を学んだ後、母校の助手と和洋女子大学の非常勤講師を経て、現在は音楽ライター。クラシック、現代音楽、ジャズ、映画音楽を中心に演奏会やCDの曲目解説、インタビュー記事を執筆。また現在進行形のジャズを紹介するMOOK『Jazz The New Chapter』に寄稿している。TBSラジオ『アフター6ジャンクション』にも不定期で出演中。趣味は楽曲分析。



ザ・フェニックスホールでも今秋、久石譲作品の演奏会を行います。

2024年10月12日(土) 15:00開演 ジャパニーズ・ミニマル・ミュージック〜オール・久石譲・プログラム〜 \*この公演に久石譲氏は出演いたしません。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2024年7月  
発行 あいおいニッセイ同和損保  
ザ・フェニックスホール  
編集 谷 昌則  
デザイン 松井桂三有限会社

